



【2017-12-13】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう



今週の雑感

『人間の本質が見えるとき』

長野修二

人間の本質が見えるとき

人生において、ときに人間の本質がか垣間見えるときがあります。その意味では、この度の選挙は格好の機会だったのではないのでしょうか。

野党のわけがわからない選挙対応から選挙結果を受けた後の言葉まで、人間そのものがあふれ出ていたように思えましたが、そう思ったのは、私だけでしょうか。

満場一致で〇〇の党へ合流からはじまり、排除の言葉、そして新たな政党の立ち上げなど、不思議なことが連続するシーンは、まるで映画を観ているようでした。

選挙が終わり、勝った政党、負けた政党がありましたが、やはり負けた政党人から出る言葉は傾聴に値します。

それは自らを含めて、人間負けた時にでる「言葉」には、その人の生き方がでてしまうからです。

あるいは、成果を出している好調時には、その好調さからつい饒舌になり、その人間が本質的にもっている姿勢が言葉にでます。

その意味では、教養がない私は何度失敗してきたことでしょうか。

人間は、言葉を使いながら自分を表現していきませんが、その言葉が生活や仕事の生の体験から積み上げた言葉であれば、それほど人間自身の行動と言葉が乖離するようなことは少ないのではないのでしょうか。

理由は、言葉に現場のイメージがかぶせられるからですが、言葉だけを生業にする人達は、そもそも現場の感覚が薄いため、言葉だけによって自分を構築していくしかありません。

そこに一般的で普通な社会とかけ離れた言葉が突然飛び出してきたりするようです。

それはそれでその人が築き上げた生き方と考え方が、言葉によって表現されるのでしょうか。

私とて、仕事でいろいろな提案をする場合、すべての人を満足させることができる提案などできませんが、すくなくとも少数者の意見に耳を傾け、さらに自分がどうしてこのような提案をすることになったのかという理由を可能限りわかりやすく明示します。

少数意見者にも意見交換する努力をしてきましたし、言葉に現場感覚が自然にはいるように生きてきたよな気がします。

長く管理部門の仕事をしてきましたが、新卒から10年ほど営業職を経験したことが、現場感覚を体得できた要因だったようにも思います。

現場感覚というのは抽象的なものであり、言葉にすることがなかなかやっかいなものです。

それを誤解なく伝えるためには、言葉を選ばなくてはなりません。

日常的に言葉を使うことに慎重になります。

なぜなら、人間社会にある言葉だけで現場感覚を表現することなど土台無理だからです。

こちらの言葉が通じないことなどしばしありますし、理解してもらうために言葉だけを尽くしても、なかなかむずかしいと考えています。

結論からすれば、時間をかけて自らの行動によって人の心に響いていかなければ、どんな仕事も他人には理解してもらえないものです。そのことを学んだのが営業職時代だったでしょうか。

経営者の多くは、案外、政治家以上に人を尊重しない言葉を使っているものです。

そのような発言が一般にあまり見えないのは、企業環境がクローズされているからです。

政治家の言葉は、多くのメディアを通して発信されますから、言葉からその人の人間性を推測することも可能ですが、企業社会の問題は政治の世界以上に、閉鎖的な社会の中では、経営者の人間性が外部から見えにくいからでしょう。

簡単なたとえで言えば、荒れた言葉を使う経営者のいる企業は、社員の言葉や態度も荒れているものです。

しかも、得意先ではバカ丁寧な話し方をし、商談が終わるや否や、口ぎたいな言葉がでてきたりします。

このような二面性をもつ人間ほど危険なものはないでしょう。

今度の選挙でみえてきたものは、この二面性ではないでしょうか。

多くの人が忌み嫌うのは当然ではないでしょうか。

このようなタイプは、オープンな議論が不得手です。

独善タイプですから、自らだけで走ります。

良いときはそれでいいのですが、反対の場合には最悪な状況を生み出します。

本来、誰しも負けは悔しいものです。

自らが全否定されたように感じるでしょう。

しかし、ある面で言えば、その人に最後のチャンスを与えてくれたともいえます。

人気だよりの選挙がいかに危ないか。

また、ワンマン経営がバレたとき、組織の課題が露呈し、自分のポジションをいかに危うくするか。

さらに、連勝の危うさなどなど、多くの教訓がそこからみえてきます。

50名近い議員をかかえる政党になったのですから、オープンな議論をし、方向を定めて、決めたことは全員でやりぬくということこそが、時間はかかりますが、人間を成長させていく唯一の方法です。

スピードは大事ですが、それは物事を進めることができる人間がいることが前提となり、その前提に合わせたスピードなのです。

〇〇ファーストなど、人を育成することもなく、数だけを得たわけですから、今度の国政選挙により、その力は確実に失われていくことでしょう。

でも、そちらのほうが良いのです。

難しい局面や実務を真摯な姿勢で乗り越えていかなければならなくなるからです。

政策本位であれば、是々非々で協力してくれる政党や政治家はでてくるものです。

いかに真剣に実務に向き合うかどうかだけではないでしょうか。

ある意味、都知事は最後のチャンスをもらっているだけでも強運で

はないでしょうか。

それぞれの未来は、その人間からしか生まれてきません。

都知事としている人間の本质が暴露されることは、本人にとっては決して喜ばしいことではないでしょうが、多くの人からみるとそれはまた、その人の変化をみることができるともチャンスでもあります。そのことは企業社会よりは、政治の社会のほうが厳しい対応を迫られ、実は人間が成長できる機会が多いのかもわかりません。

大手企業の不正が次々にでていますが、まさに人間の本质をみる機会になっています。

残念ながら、大手企業の問題は、企業の売却や事業の縮小などを伴いながら、やがて歴史の第一線から消えていく運命をたどりそうです。トップがメディアの前で語る言葉には、なにか足りないものを感じるのは、私だけでしょうか。

本当の意味で人間が鍛えられるということは、どのような条件があるときなのでしょう。

一番人間が鍛えられていない私がいうのもおこがましいのですが、なにやら不快感だけが漂う今日このごろです。

自分を含めて人間の本质とは、なかなか答えがでない永遠のテーマなのかも知れません。

歴史は、その繰り返しの反映でしょうか。